

大日本スクリーン製造株式会社

2011年3月期 第2四半期 決算説明会

2010年11月9日

取締役社長 COO 橋本 正博

本日のアジェンダ

- 2011年3月期 第2四半期連結業績 結果と分析
- 事業環境
- 2011年3月期 連結業績予想修正

資料取り扱い上の注意

- 本資料および口頭にて提供する将来の当社業績見通しは、直近で知り得る情報をもとに作成したものであります。しかしながら、世界経済やエレクトロニクス業界の技術変化、半導体・FPDパネルの市況など、当社を取り巻く事業環境は急速に変化いたします。つきましては、今後当社の業績見通しが本資料と異なる可能性もございますので、ご了解願います。
- 本資料に記載しております数字につきましては、単位未満切捨てで処理しております。比率は百万円単位で計算した結果を四捨五入して処理しております。

2Q 連結業績結果

2011年3月期 2Q 連結業績結果

(単位：億円)	2010年3月期			2011年3月期					差異
	実績			実績			8/10予想		
	2Q	3Q	4Q	1Q	2Q	累計	累計		
売上高	414	457	509	514	589	1104	1140	▲ 36	
SE	226	317	313	327	365	692	733	▲ 41	
FE	72	38	66	82	92	174	179	▲ 5	
MP 其他電子 (PE)	12	7	16	13	23	37	39	▲ 2	
MP 画像情報処理機器 (MT)	101	93	111	89	106	196	186	10	
其他	1	1	1	1	1	3	3	0	
営業利益	▲ 95	▲ 9	26	46	63	110	85	25	
SE				49	61	110	-		
FE	▲ 88	▲ 4	28	6	0	6	-	-	
MP 其他電子 (PE)				▲ 9	1	▲ 7	-	-	
MP 画像情報処理機器 (MT)	▲ 7	▲ 5	▲ 2						
其他	0	0	0	0	1	1	-	-	
経常利益	▲ 101	▲ 13	17	46	63	109	80	29	
純利益	▲ 103	5	42	38	57	95	67	28	

2011年3月期 2Q 連結業績分析

売上高

実績 589億円 ・ 前四半期 514億円 （前四半期比：75億円増加）
（単位：億円）

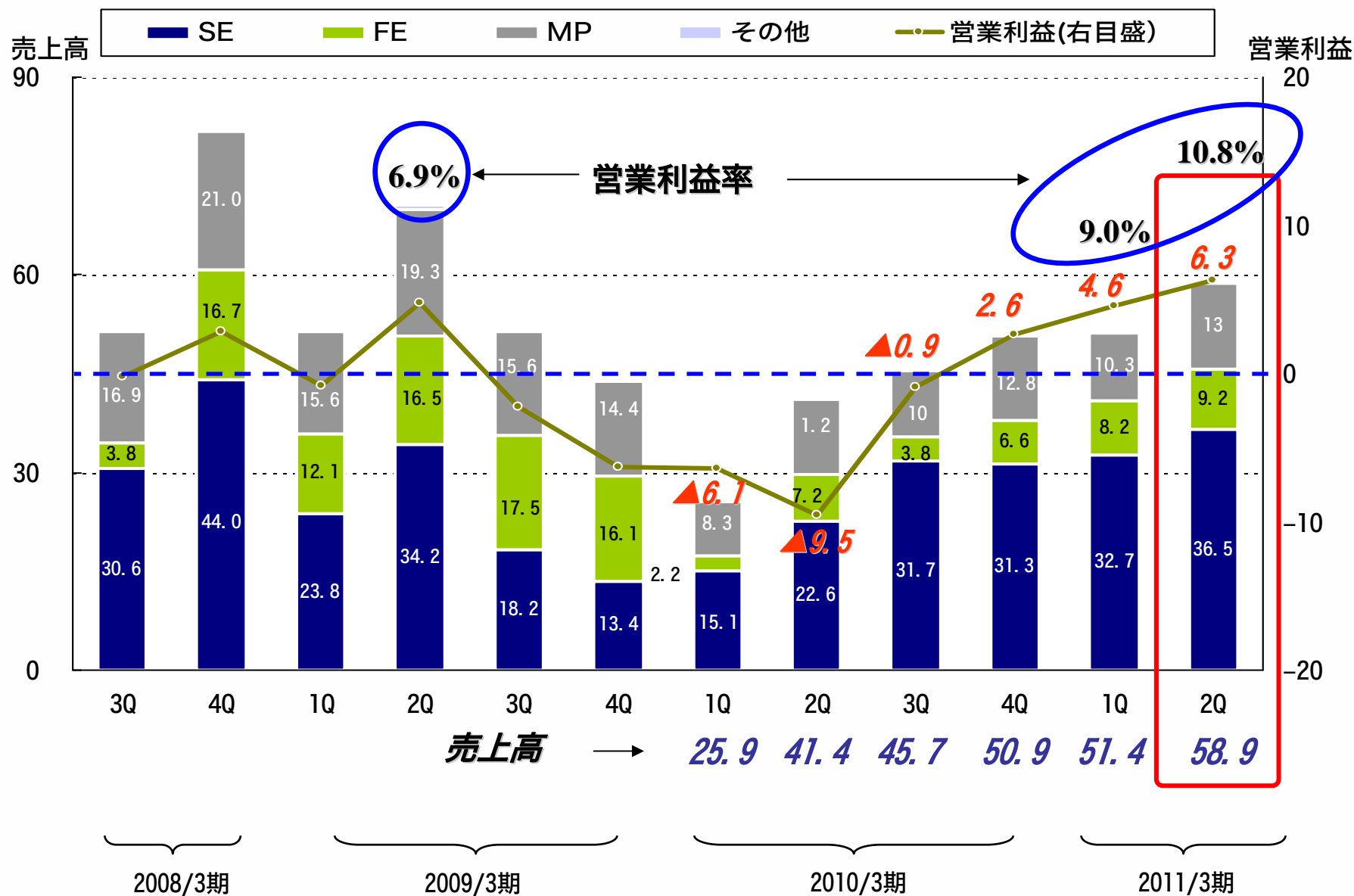
セグメント	1Q	2Q	差異	ポイント
SE	327	365	37	・バッチ式洗浄装置の出荷が想定以上、SOKUDOも堅調
FE	82	92	10	・全体では計画通り推移、日本向けが計画を超過
MP	103	130	27	
PE	13	23	10	・検査機器好調 ・計測機器も堅調に推移
MT	89	106	16	・CTPは先進国でも回復傾向を確認、2Q出荷台数は危機前レベルに回復

営業利益

実績 63億円 ・ 前四半期 46億円 （前四半期比：17億円増加）

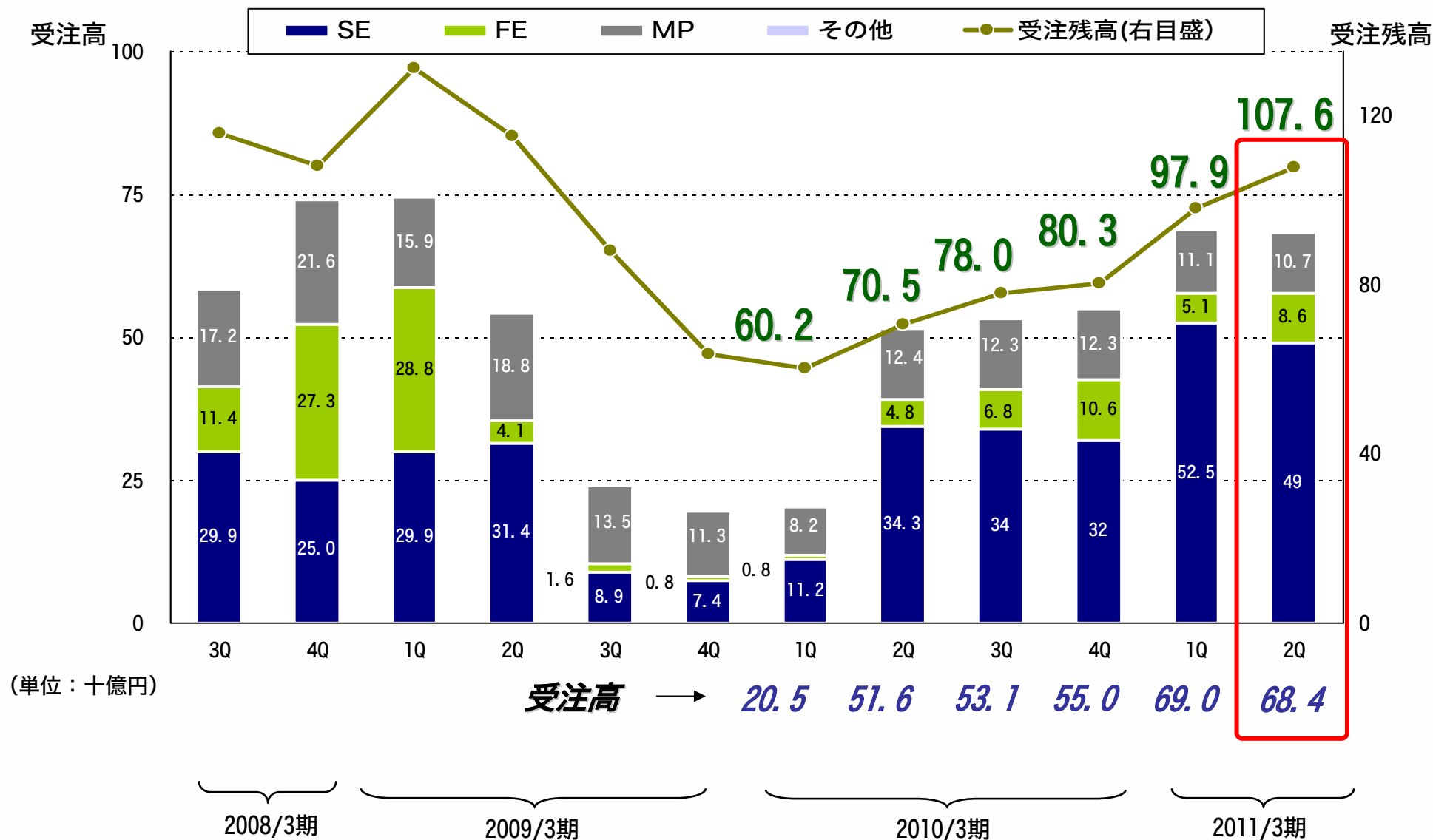
セグメント	1Q	2Q	差異	ポイント
SE	49	61	12	・コストダウン効果、セールスマックス改善にて増益
FE	6	0	▲6	・コストダウンの促進にて上期営業利益計画比上振れ
MP	▲9	1	10	・PEは売上大幅増、MTも売上伸張で、MPトータルとして2Qは黒字転換
PE	-	-	-	
MT	-	-	-	

売上高・営業利益 四半期推移 (連結)



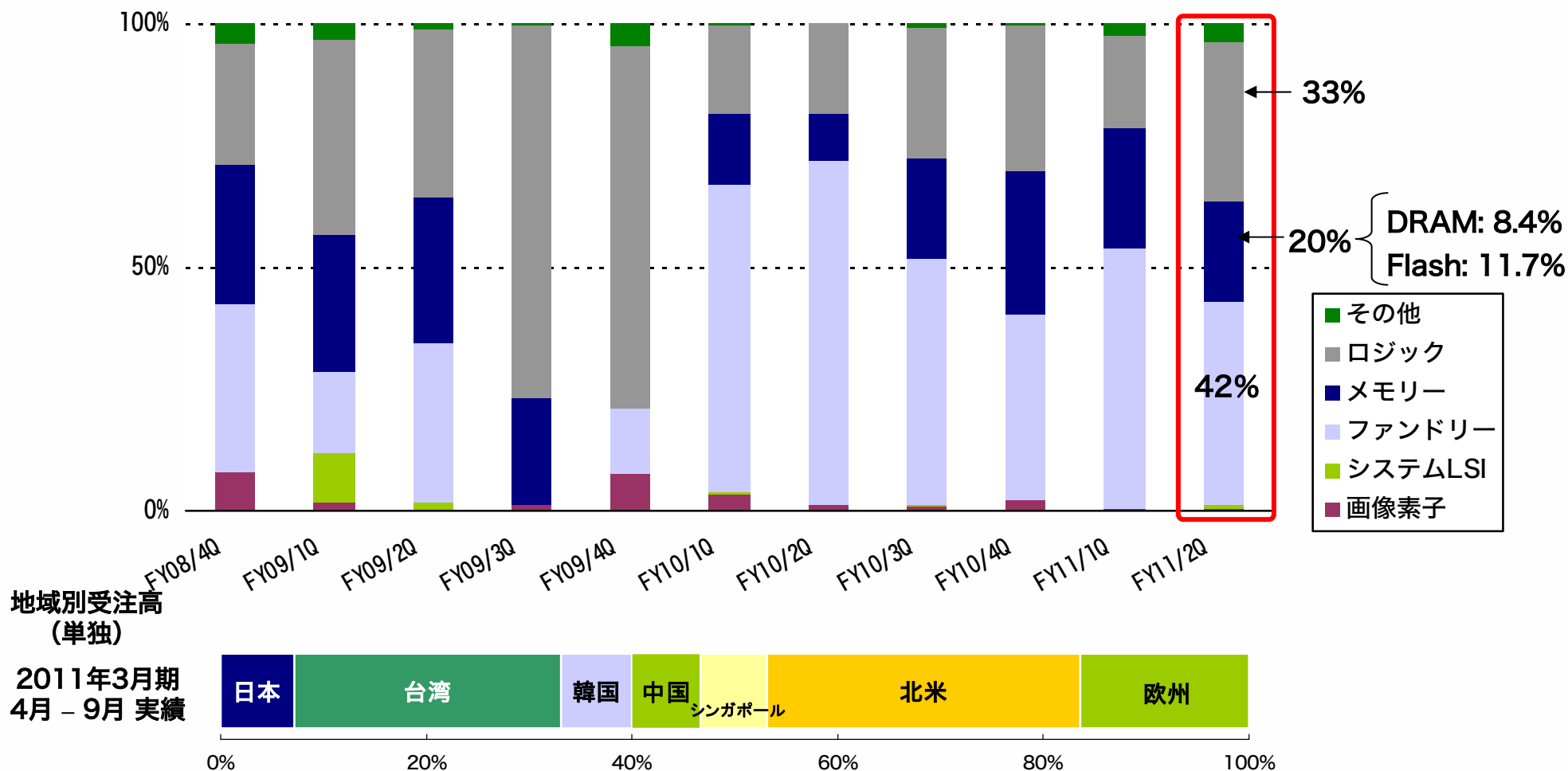
(単位：十億円)

受注高・受注残高 四半期推移 (連結)



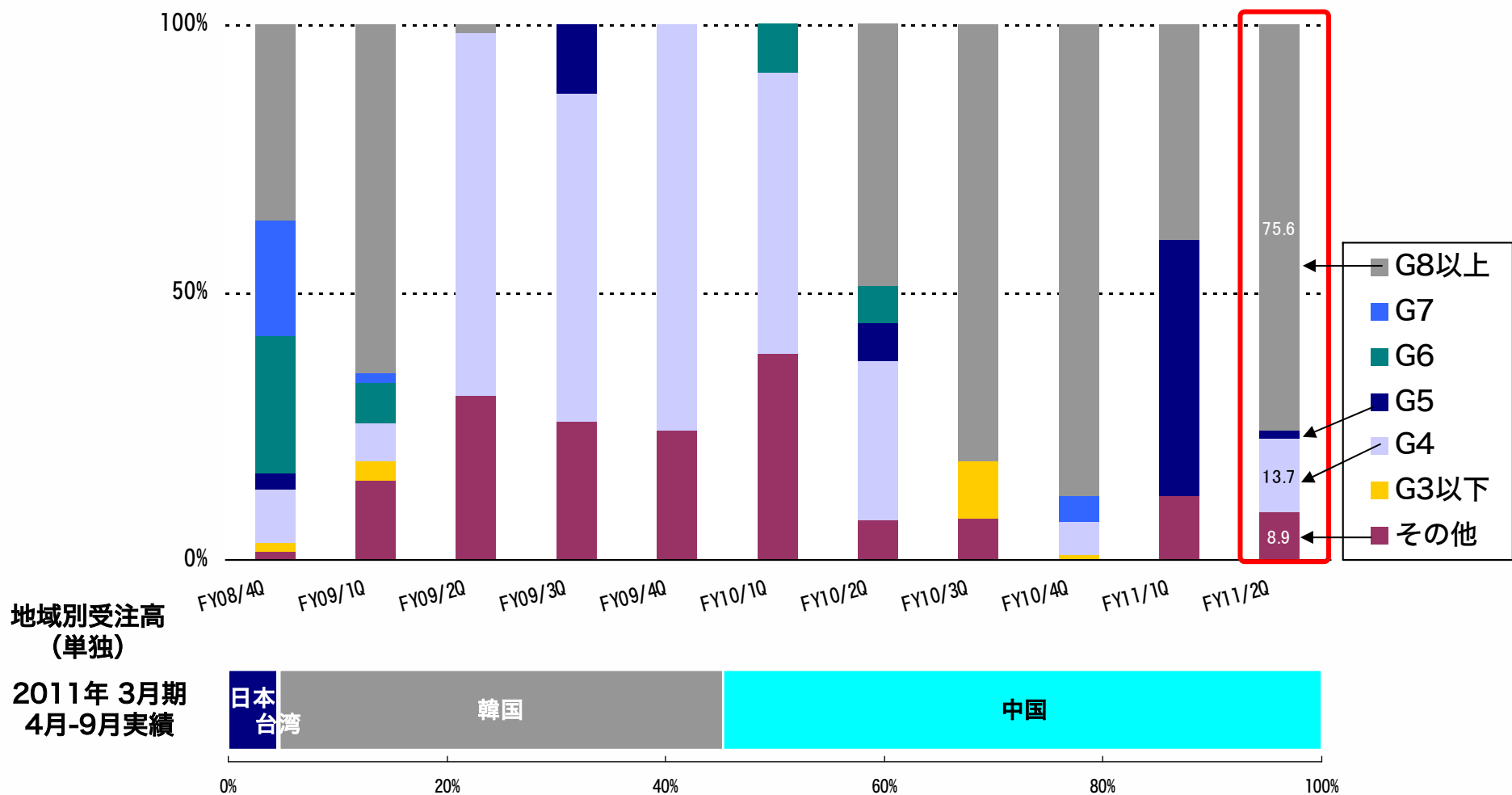
半導体製造装置 デバイス分類別受注比率 四半期推移 (単独)

> 2Q受注高は490億円 (連結)
 > 3Q受注は一時的な調整局面、4Qは再び増加へ！

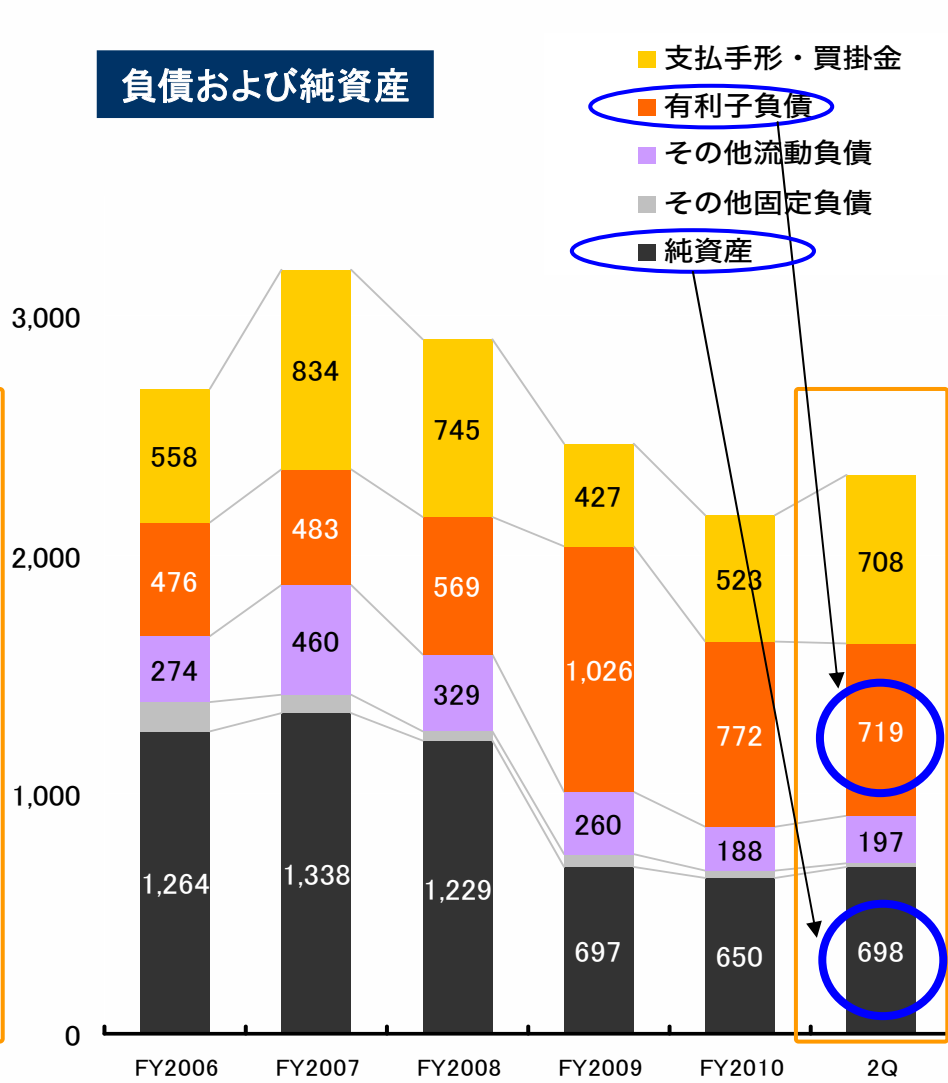
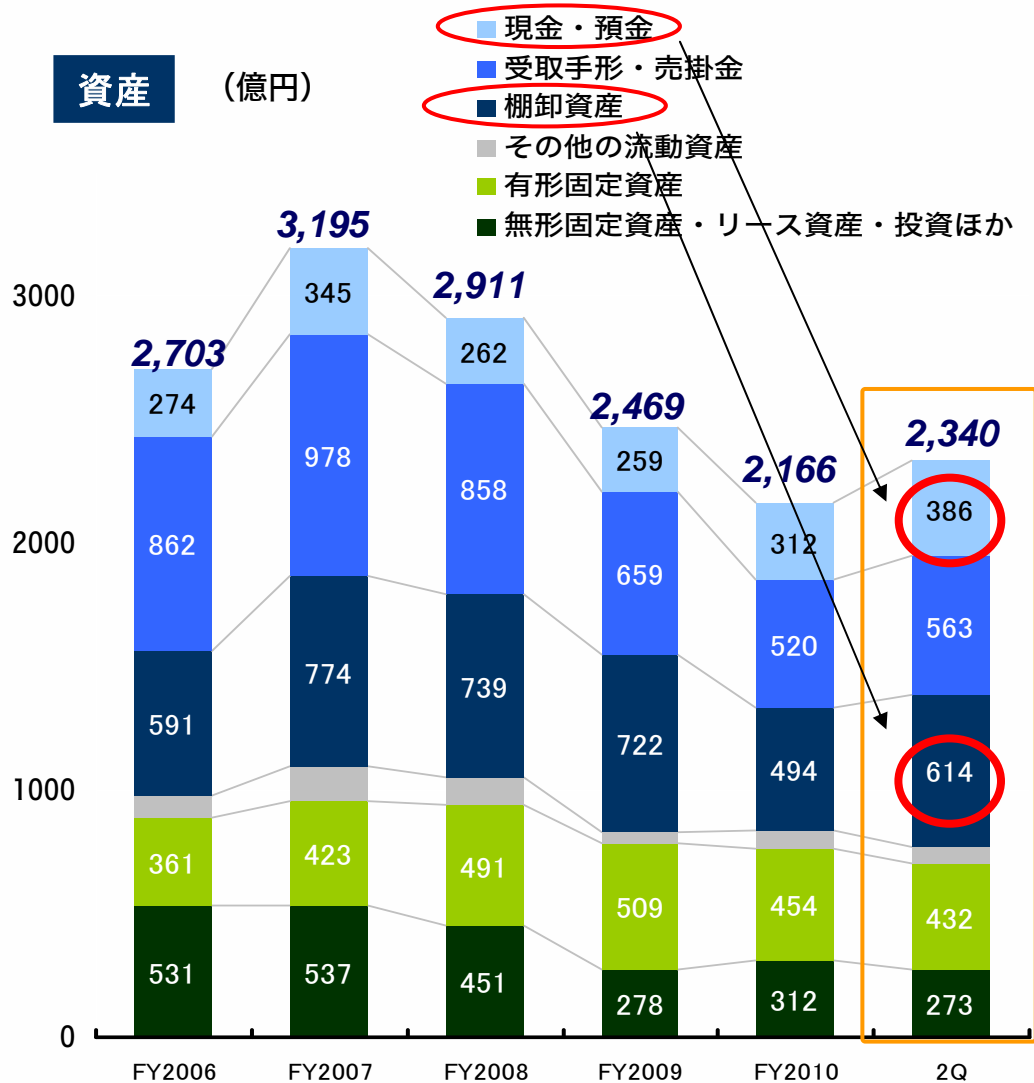


FPD製造装置 世代別受注比率 四半期推移 (単独)

- 2Q受注高は86億円
- G8受注比率回復



貸借対照表 (連結)



自己資本比率 29.8% (2010/3) → 29.7% (2010/9)

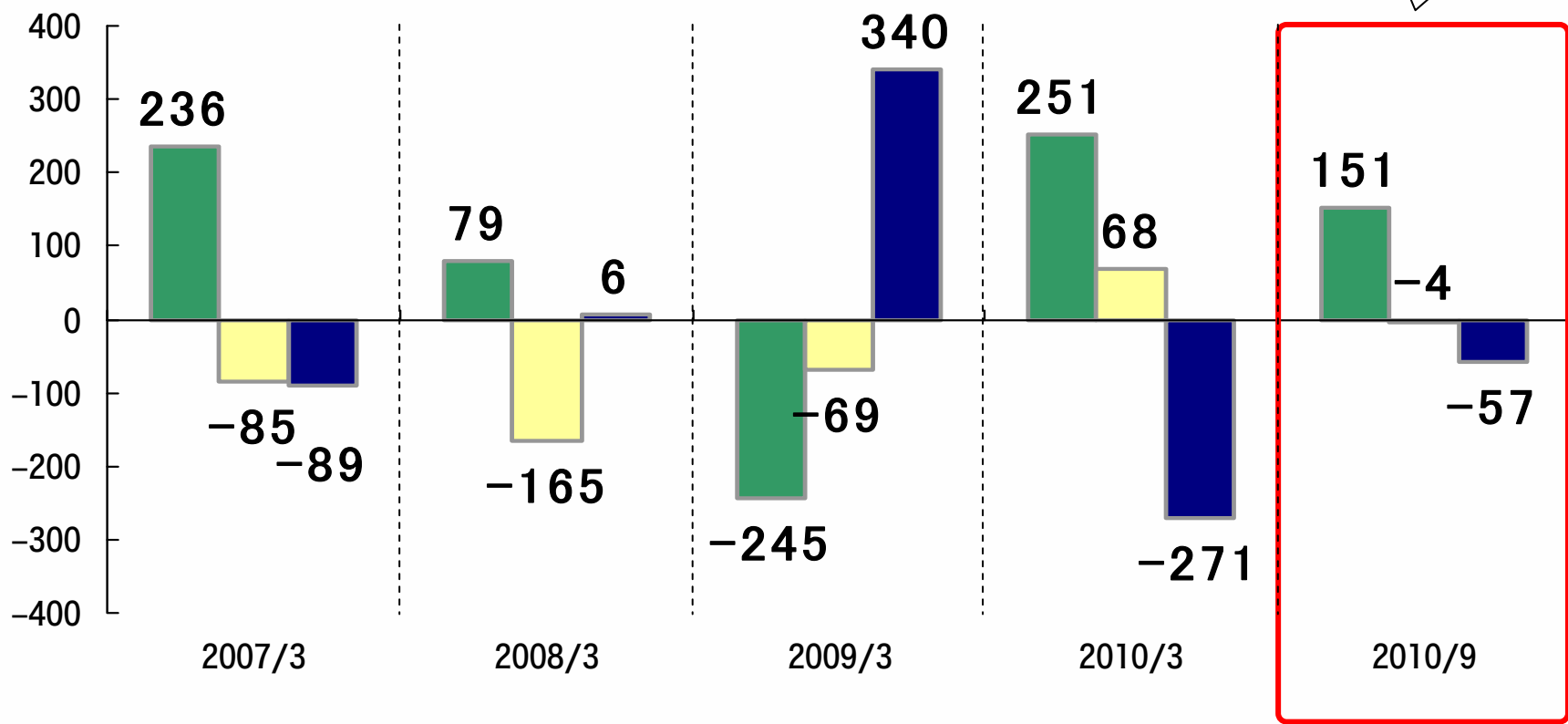
キャッシュ・フロー（連結）

フリーキャッシュ・フロー：147億円

営業CF： 151億円
 投資CF： -4億円
 財務CF： -57億円

(単位：億円)

■ 営業CF ■ 投資CF ■ 財務CF

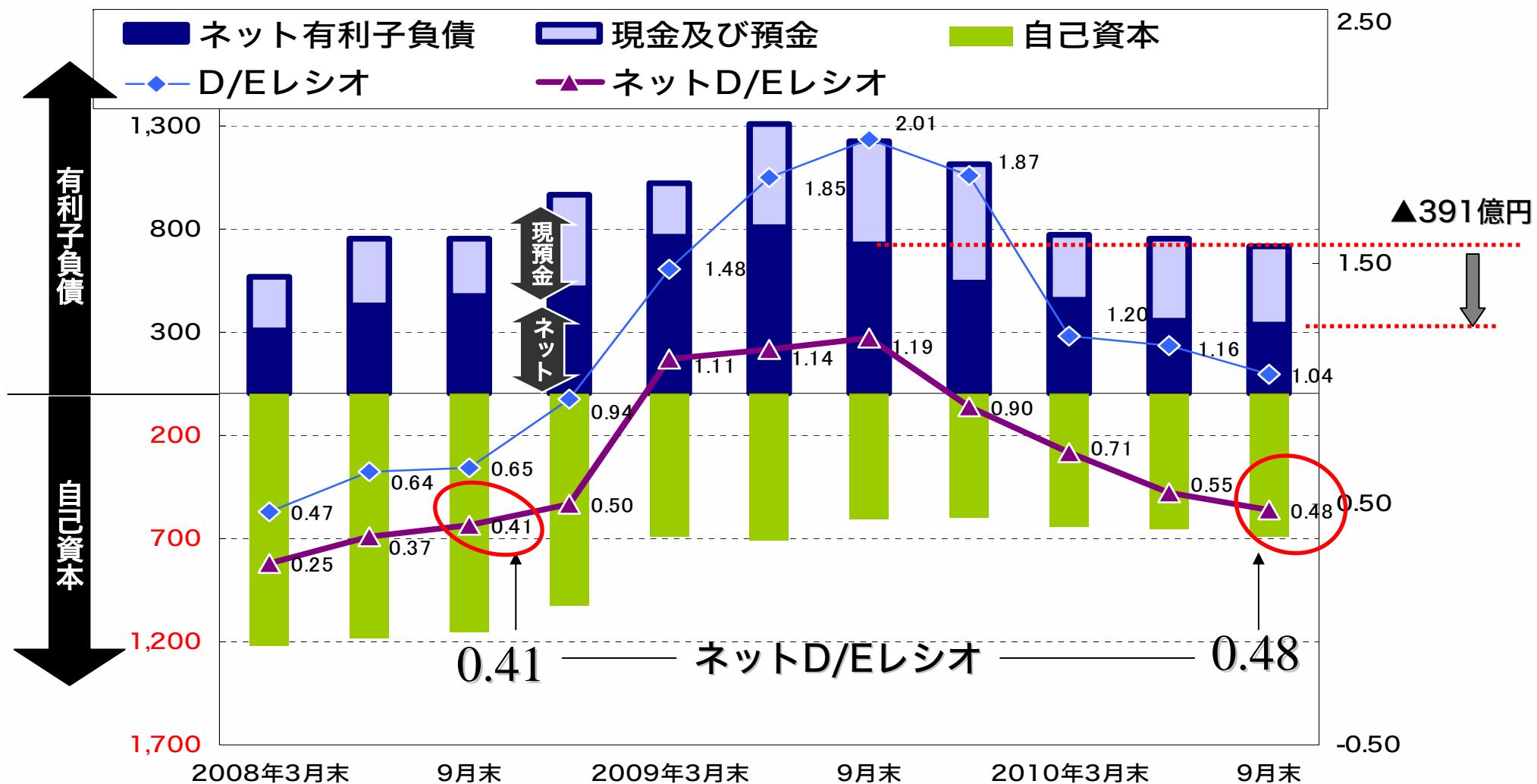


有利子負債およびD/Eレシオの推移(連結)

有利子負債
(単位：億円)

ネットD/Eレシオはリーマンショック前の水準に！！

D/E レシオ



※2008年3月末有利子負債にはリース債務を含んでおりません。

緊急対策は一部解除

- 管理職・一般職の給与カットは、全面解除（10月より）

再建策は今下期も継続！

- 変動費率
 - 改善傾向。継続的なコストダウン活動を推進
- 事業再編
 - 子会社損益大幅改善

配当

現段階では未定。

ただし、復配に向け検討中！

事業関連

セグメント別事業環境

SE & FE

2Q総括

【SE】

- ・売上、受注ともに一部顧客に調整傾向があるも、顧客の強気な投資姿勢に変更なし
- ・枚葉洗浄装置は引き続き好調。バッチ式洗浄装置が想定以上の伸び

【FE】

- ・中国投資案件（G8）の受注。
- ・LTPS、OLED向けコーターデベロッパも堅調

3Q以降の展望

【SE】

- ・受注は一旦調整局面を迎えるも、4Q以降再び高水準の回復を見込む
- ・今期後半にかけて大型商談の受注に注力

【FE】

- ・中国投資案件の進捗鈍化
- ・太陽電池向け計測機器事業をMPカンパニーより移管、PV推進部を創設
- ・iPhone、スマートフォン向けLTPS・OLEDへの投資は堅調に推移
- ・有機EL向けノズルプリンティング装置、インクジェットスプレー機の受注を見込む

セグメント別事業環境

MP

2Q総括

【MT】

- ・CTPの販売台数が順調に伸び、売上面で回復傾向（赤字幅縮小）
 - 先進国でも1Q比大幅な回復（四半期台数ベースでリーマンショック前の水準へ回復）
- ・PODもIPEX展（英国）の効果もあり、依然低レベルながら、販売台数が回復傾向
 - 市場に広がりが出始めている。「先進国」から「先進国＋新興国」へ

【PE】

- ・検査機器及び計測機器が好調に推移し、売上高が大幅増加
- ・検査機器を中心に、日本国内販売が好調

3Q以降の展望

【MT】

- ・CTPは、先進国においても回復基調を確認するも、為替動向など不安要素は拭えず低価格化が進む。→ 中国生産子会社の増床 → 生産比率引上 → コストダウンを進める
- ・PODは着実な回復基調 → ラインナップの拡充 → マーケット確保に注力

【PE】

- ・検査機器は、2Qの反動で3Qは踊り場
- ・4Q以降、露光機器が回復見込み
- ・地域的には日本以外のアジアへシフト

MT事業再生計画の骨子

目標

- ・ 2011年3月期： 経常損失の最小化
- ・ 2012年3月期： 経常利益ベースで黒字化

基本方針

筋肉質体制へ、そして再成長・拡大路線へ

→ 厳しい為替前提で再建にあたる！ (1\$:JPY80、1€:JPY105)

- ・ 組織規模の適正化
- ・ PODの販促に軸足をおいた販売網の再編
- ・ グループ力を生かした開発・製造の最適化
- ・ CTPはMTMCへの生産移管を促進
- ・ PODは、他社との連携を強化したコンプライートソリューションの提供

連結業績予想修正

2011年3月期 連結業績予想修正

下半期想定為替レート: 1\$=80yen, 1€=110yen

(単位: 億円)

	2011年3月期										2010年 3月期 実績			
	上期		下期				通期							
	8/10予想		実績		8/10予想		今回予想		8/10予想			今回予想		
売上高	1,140		1,104		1,460		1,445		2,600		2,550		1,641	
SE	733		692		1,042		1,045		1,775		1,738		1,009	
FE	179		174		176		175		355		350		198	
MP	PE	225	39	233	37	239	36	222	30	464	75	455	67	
			186											
その他	MT	3		3		3		3		6		7		5
営業利益		85		110		110		110		195		220		▲ 140
経常利益		80		109		105		105		185		215		▲ 172
当期純利益		67		95		98		104		165		200		▲ 80

SEは半導体機器事業、FEはFPD機器事業、MPはメディアアンドプレジジョンテクノロジー事業を示す。

事業関連

<SEセグメント>

- ・ 最終アプリケーションの需要は堅調
- ・ 受注環境は一時的な調整局面を経て4Q以降再び高いレベルへ

<FEセグメント>

- ・ 中国案件の新規投資計画は進展鈍化
- ・ LTPS、OLED向けは堅調。新ビジネス領域の確保に注力

<MPセグメント>

- ・ CTP販売台数は四半期ベースでリーマンショック前の水準に！
- ・ PODも新興国など、新たなマーケットへの広がりが出始めた

経営課題

- ・ 変動費率の改善と事業再編
- ・ 製品競争力の強化による 利益率向上
- ・ 財務基盤の強化
- ・ 新たな成長戦略の策定

次期中期経営計画の骨子

経営目標

ダウンサイドにおける収益性の確保
減少した純資産の回復（自己資本比率の向上）

基本方針

安定した収益構造確立と新たな成長への基盤作り

- 既存ビジネス（黒字確保）と新規事業のバランスの取れた成長
- マーケティング力・開発力・設計力・製造力の強化
- グローバル化への基盤整備